

3. MENOKOYUKAR

メノコユカラ

PON SETA UTAR

ポンセタウタラ

sákehe:

wo wo kar kanto kanto

サケヘ:

ウォウォカラカントカント

1 wo wo kar kanto kanto

1 ウォウォカラカントカント

2 kanto or ta

2 カントオッタ

wo wo kar kanto kanto

ウォウォカラカントカント

3 horkew ekasi

3 ホルケウエカシ

4 ci=koasurani na.

4 チコアスラニナ。

wo wo kar kanto kanto

ウォウォカラカントカント

5 ci=kor tutto

5 チコロトット

wo wo kar kanto kanto

ウォウォカラカントカント

6 horkew nikne hi ek wa

6 ホルケウニクネヒエクワ

7 e wa isam na.

7 エワイサムナ。

wo wo kar kanto kanto

ウォウォカラカントカント

3. 神謡 (女の叙事詩)

子犬たち

折り返し:

ウォ ウォ カラ カント カント

折り返し 8 拍

歌詞だいたい 1 行 4 拍

川上まつ子

1976年8月6日録音

1 ウォ ウォ カラ カント カント

2 天の

ウォ ウォ カラ カント カント

3 オオカミおじいさまに

4 お知らせしますよ。

ウォ ウォ カラ カント カント

5 ほくたちのママは

ウォ ウォ カラ カント カント

6 オオカミの悪いやつが来て

7 食べられてしまったよ。

ウォ ウォ カラ カント カント

1 **wo wo kara...** ウォウォカラ... **wo wo** ウォウォは、速吠えの声、**kanto kanto** カント、カントは《天、天》、天にいる狼神を呼んでいる。**kar** カラは、後に母音のついた **kara** カラのように聞こえる。しかし、全体のリズムから見て、ここでは1音節の **kar** カラを意図しているものと解釈した。3行目の **kor** コロなども同様。

4-1 **ci=チ** 《私たち》。自称に、引用文中の自称の形(不定人称形、**a/=an** ア/アン のつく形)ではなく、本人たちが直接言う形(1人称複数形、**ci/=as** チ/アシ のつく形)が使われている。5, 9, 11, 12でも同様。伝統的な神謡の形式の特徴である。もともとは、神がのりうつったシャーマンが歌った、というような、神謡の起源に由来するのだろう。その場合、日常語と違って、一人の神、一匹の動物であっても、複数形が使われる。つまり、《私》と言う代わりに《われわれ》と言う。この神謡では、何匹もの子犬だから、日常語でも、当然複数形が使われるところである。

4-2 **koasurani** コアスラニ [**ko-asur-ani** コ・アスル・アニ …に・うわさ・を持っていく] =《…に危急を知らせる》。

5-1 **ci=kor** チコロ 《私たちの》。

5-2 **totto** トット 《乳房、おっぱい》だが、幼児語で《おかあちゃん、ママ》。成人の言葉では **hápo** ハポ。成人の言葉で母を **totto** トットと言う地域も広い。

6-1 **horkew...** ホルケウ... この行は6拍。

6-2 **nikne** ニクネ [**<nit-ne** 棒になる]《硬くなる、硬い》、ここでは《(動物や神が)凶暴である》。(福満W,S)、(千歳SN)は **nitne** ニトネ と言う。☞民話(2)149

7 **e wa isam na** エワイサムナ 直訳すると《(狼の悪いやつがママを)食べてしまったよ》。アイヌ語では、受け身の言い方は日本語ほど使わない。

8	totto isam wa	8	トット イサム ワ
9	ene iki=as hi ka isam na. wo wo kar kanto kanto	9	エネ イキアシ カ イサム ナ。 ウォ ウォ カラ カント カント
10	kanto kor ekasi	10	カント コロ エカシ
11	un=ka opiwki wa	11	ウンカ オピウキ ワ
12	un=kore yan. wo wo kar kanto kanto	12	ウンコレ ヤン。 ウォ ウォ カラ カント カント
13	pon seta utar	13	ボン セタ ウタラ
14	herikasino	14	ヘリカシノ
15	herikasino oka wa,	15	ヘリカシノ オカ ワ、
16	unuhu isam wa	16	ウヌフ イサム ワ
17	yaywennukar kusu	17	ヤイウエンヌカル クス
18	kanto kor ekasi	18	カント コロ エカシ
19	koasurani hawe ne na.	19	コアスラニ ハウエ ネ ナ。

- 8 ママがいなくて
- 9 どうすることもできないよ。
- ウォ ウォ カラ カント カント

10 天のおじいさま

11 たすけて

12 ください。

ウォ ウォ カラ カント カント

13 子犬たちが

14 上の方を

15 上の方を見上げて

16 母親がいなくて

17 困ってしまったので

18 天のおじいさまに

19 訴えているのですよ。

8 **totto isam wa** トットイサムワ 《ママがいなくなつて、ママが死んで》とも訳せる。(福満W, S)らの言葉では、mのあとでwaはmaとなり、isamna イサンマとなる。(語り手KM)の言葉ではこの交替は起こらない。

9 **ene iki-as hi ka isam** エネイキアシカイサム 《私たちはどうしようもない》。as アシは、自動詞主格1人称複数(私たちがは) (⇒4-1)。この行は6拍。

10 **kanto kor ekasi** カントコロ エカシ 《天を領有するおじいさま》=(天を守る神であるおじいさま)。

11 **ka(si) opiwki** カ(シ) オピウキ 【連他動】《...を助ける(救助/救援)する》。un= ウンは、1人称複数目的格《私たちを》。

13 **pon seta** ポンセタ 《子犬》。ここから終結部、折り返しと節のつかない語りになる。(福満W, S)らの言葉では、sの前でnはyとなり、pon seta は poyseta ポイセタと発音していたが、(語り手KM)の言葉ではこの音素交替は起こらず、ボンセタと言っている。

14 **herikasino oka** ヘリカシノオカ (直訳すると)《上の方へいる》=《上の方を向く》。犬が上を見上げるような恰好をして、遠吠えしている様子の描写。上、下、こっち、向こうなどの方向を、見るとか向くとか言うのに、アイヌ語では、「...を」ではなく「...へ」という言い方をする。

16 **isam wa** イサムワ ⇒8

17 **yaywennukar** ヤイウエンヌカラ [yay-wen-nukar ヤイウエン・ヌカラ 自分(を)・悪く・見る]《どうにもならず困りきる》。

19 **koasurani** コアスラニ 《...に危急を知らせる》。⇒4, 民話(1)138, 174 **koasurupusi** コアスルプシ